

A52 (三輪・纏向・織田)

【 伝承 卑弥呼の墓物語 】

～ 箸墓古墳 ～



『日本書紀』によると、倭迹迹日百襲姫命やまとととひもそひめのみことは、大物主神の妻となりましたが、神は昼には来ず、夜だけやって来られるため、姫が朝まで留まるように頼んだところ、翌朝に神は小蛇こおろちの姿となつて姫の櫛函くしはらの中におられたので、姫は驚いて叫んでしまいました。お怒りになった大物主神は三輪山に戻ってしまった、悔いた姫は自らを箸で突いて死んでしまったので、葬られた墓を箸墓と呼んだとされています。箸墓古墳は全長約二百八十メートルの前方後円墳で、宮内庁より倭迹迹日百襲姫命大市墓として陵墓指定されており、築造時期は三世紀中ごろから後半と考えられています。箸墓古墳は邪馬台国の女王卑弥呼の墓ではないかとも言われています。

(桜井市 箸中)